

七ヶ浜町震災復興事業関連 遺跡調査報告 2

平成27年度(2)・28年度・令和元・2年度
東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書

七ヶ浜町文化財調査報告書 第13集

七ヶ浜町震災復興事業関連遺跡調査報告 2

平成27年度(2)・28年度・令和元・2年度
東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書

令和三年三月

宮城県七ヶ浜町教育委員会

令和3年(2021年)3月

宮城県七ヶ浜町教育委員会

七ヶ浜町震災復興事業関連 遺跡調査報告 2

平成27年度(2)・28年度・令和元・2年度

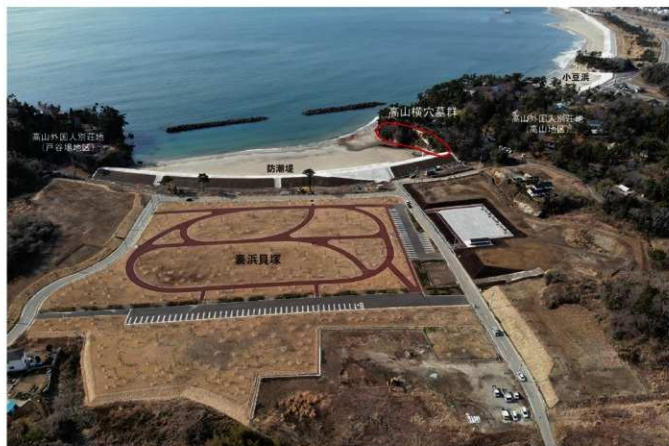
東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書



巻頭写真1 花洲浜・吉田浜地区 (2016年撮影)



巻頭写真2 真山堀 (2015年撮影)



卷頭写真3 都市公園 表浜緑地 (2019年撮影)



卷頭写真4 表浜貝塚 SX12土器集中遺構出土遺物

1：甕 2：高台壇 3～7：环（赤焼土器）

序 文

平成23年3月11日に発生した東日本大震災が引き起こした巨大津波は東日本の沿岸部を襲い、本町においても沿岸部を中心に町面積の36.4%にも及ぶ壊滅的な被害をもたらしました。避難者数6,143名、被災家屋3,929棟、94名の尊い命が犠牲となりました。

この未曾有の大震災からの一日も早い復旧・復興を目指し、世界中から80,000名におよぶ方々が救助・支援活動のために駆けつけてくださいました。その後、個人での住宅再建をはじめ、高台への防災集団移転や各種産業施設・インフラの復旧・復興事業の本格化に伴って埋蔵文化財の調査が急増いたしました。

今回刊行する報告書は、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。本町では平成24年から27年度上半期に実施した調査成果について、平成28年3月に報告書を1冊刊行しております。2冊目となる本書では、平成27年度下半期から令和2年度に実施した7遺跡の調査成果を報告します。表浜貝塚では平安時代の土器がまとまって出土し、林崎貝塚では土器を使用した塩作りの痕跡が確認され、縄文時代終わり頃の土器、塩作り専用の土器、貝殻・動物の骨が出土しました。

海からの豊かな恵みを楽しみながら幾多の自然災害を克服し、この地に脈々と文化を育んできたにせいの人たちの営みの一端を記録し伝えることが地域の再発見につながるとともに、大震災後の本町のまちづくりの一助となれば幸いに存じます。

結びに、円滑な調査の実施及び報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力を頂いた多くの関係者・関係機関の皆様には厚く御礼を申し上げます。

令和3年3月

七ヶ浜町教育委員会
教育長 武田 光彦

例 言

1. 本書は、「東日本大震災復興特別区域法」に基づき、七ヶ浜町が作成した「復興交付金事業計画」に対して復興庁が交付した「東日本大震災復興交付金」により平成27年度下半期(平成27年9月～平成28年3月)及び平成28年度、令和元年度(平成31年度)、令和2年度に七ヶ浜町教育委員会が実施した「埋蔵文化財発掘調査事業(A-4事業)」による埋蔵文化財発掘調査(確認調査)報告書である。
2. 本書は、表浜貝塚(8次調査)、土浜A・B貝塚、阿川沼貝塚(2次調査)、貞山堀、長須賀遺跡(5次調査)、二月田貝塚(5次調査)、林崎貝塚(3次調査)の調査成果を掲載している。附章として、二月田貝塚4次調査(七ヶ浜町文化財調査報告書第11集所収)において出土した玉象嵌土製品の石材判別に関する化学分析報告を掲載した。
3. 発掘調査及び資料整理、本書の作成に際し、以下の諸氏・諸機関よりご指導・ご助言並びにご協力を賜った。ここに記して、心より謝意を表します。
阿部 芳郎・飯塚 義之・生田 和宏・梅原 健一・大金 知子・小村 佳之・蒲生 佑佳・梶持 怜・佐々木 由香・佐藤 敏幸・高橋 栄一・高橋 透・立松 彰・千葉 宗太郎・堤 洋平・豊村 幸宏・中村 滋・初鹿野 博之・廣谷 和也・古田 和誠・宮内 慶介・山田 俊輔・山田 俊雄
宮城県教育庁文化財課・宮城県仙台土木事務所・宮城県仙台釜釜港湾事務所・宮城県仙台地方振興事務所
4. 発掘調査における現場写真撮影に下記の機材を使用した。また、表浜貝塚の遺構平面図などの作成には下記の電子平板及びソフトウェアを使用した。
カメラ:Nikon D90/レンズ:AF-S NIKKOR 18-105mm(撮像素子サイズ:23.6×15.8mm、有効画素数:129メガピクセル)
遺構実測支援システム:CUBIC社製 遺構くんver.2015
5. 本書に掲載した遺構実測図などのトレース、画像処理には下記のソフトウェアを使用した。
Adobe Illustrator CC 2019/Adobe Photoshop CS6
6. 第1図は国土地理院発行1/25,000地形図「塩竈」、遺跡位置図は国土地理院発行1/50,000地形図「塩竈」をそれぞれ複製・加工して使用した。
7. 本書で使用した遺構記号及び略号は下記のとおりである。
S I:竪穴住居跡 S L:炉跡 S K:土坑 S D:溝跡 S X:遺物包含層、土器集中遺構、遺物集中遺構、火山灰集中遺構、集石遺構、硬化面、性格不明遺構 P:柱穴・小穴 T:トレンチ S:礫
8. 各調査区の層序は算用数字で表記した。
9. 調査区・遺構配置図、土層・遺構断面図などにはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。
調査区・遺構配置図:1/20、1/60、1/100、1/150、1/400、1/600、1/1000、1/1500、1/2000、1/3000
土層・遺構断面図:1/20、1/40、1/60、1/80
10. 遺構堆積土・埋土などの土色・土性の記述については、「新版標準土色帖」(小山・竹原2011)に基づいて記述を行った。
11. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。
土器:1/2、1/3 土製品:1/2 石製品:1/2

12. 土器実測図のうち、土師器内面にスクリーントーン（黒色・透明度30%）が貼り付けてあるものは黒色処理がされていることを示す。
13. 遺物写真図版の縮尺は、土器・石製品の立面・俯瞰、土製品・貝類の俯瞰すべて1/2または1/3である。
14. 遺物の寸法は一部から復元したものや破損により正確な数値ではないものに（ ）を付した。また、寸法及び重さの単位は「cm」、「g」である。
15. 遺物の写真撮影は、株式会社アートプロフィールに委託した。
16. 表浜貝塚出土炭化物の放射性炭素年代測定及び樹種同定を株式会社加速器分析研究所、林崎貝塚出土炭化種実（クリ子葉）と炭化材の放射性炭素年代測定を株式会社バリノ・サーヴェイにそれぞれ委託した。
17. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、遺物実測図の作成及びトレース、遺物拓本、図版レイアウトなどは田村正樹・吉田麻美が担当した。
18. 本書の執筆は、1～3章を田村正樹、附章を飯塚義之（台湾・中央研究院地球科学研究所研究技師、金沢大学国際文化資源研究センター客員研究員）が執筆した。編集、校正、照合は田村正樹が行い、吉田麻美がこれを補佐した。
19. 平成24年度から平成27年度上半期（平成27年8月まで）に行った調査の成果は以下においてすでに報告・公表している。また、本書報告の調査成果について一部記述しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書が優先する。
七ヶ浜町教育委員会 2016『七ヶ浜町震災復興事業関連遺跡調査報告1 平成24～26年度・27年度（1）東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書』七ヶ浜町文化財調査報告書第11集
20. 本書掲載の遺跡における過去の調査成果などについては、以下においてすでに報告・公表している。
〔二月田貝塚 1・2次調査〕
宮城県塩釜女子高等学校社会部 1970「宮城県七ヶ浜町吉田浜二月田貝塚発掘調査報告」〔貝輪〕6号
宮城県塩釜女子高等学校社会部 1972「宮城県七ヶ浜町二月田貝塚第二次発掘調査報告」〔貝輪〕7号
※後藤勝彦 2013「仙台湾沿岸貝塚の基礎的研究Ⅴ－その他の貝塚・製塩遺跡－」に再録
〔二月田貝塚 3次調査〕
七ヶ浜町教育委員会 2019「二月田貝塚・東宮貝塚」七ヶ浜町文化財調査報告書第12集
21. 引用文献及び本書執筆にあたり参考とした文献については、巻末に一括して掲載した。
22. 発掘調査に伴う出土遺物及び図面・写真などの調査記録資料については、七ヶ浜町教育委員会が管理し、七ヶ浜町歴史資料館（七ヶ浜町境山2丁目1-12）で一括保管している。

目 次

序 文 ・ 例 言 ・ 目 次

| | |
|---|----|
| 第1章 七ヶ浜町内の遺跡と地理的・歴史的環境 | 1 |
| 第2章 調査計画と実績 | 5 |
| 第1節 調査体制 | |
| 第2節 調査計画と実績 | |
| 第3節 調査方法 | |
| 第3章 震災復興事業関連遺跡の発掘調査（確認調査） | 7 |
| 第1節 表浜貝塚 | 7 |
| 第2節 土浜A・B貝塚 | 24 |
| 第3節 阿川沼貝塚 | 26 |
| 第4節 貞山堀 | 28 |
| 第5節 長須賀遺跡 | 31 |
| 第6節 農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡 | 36 |
| 1 二月田貝塚 | 36 |
| 2 林崎貝塚 | 40 |
| 第4章 自然科学分析 | 52 |
| 第1節 表浜貝塚出土炭化材及び炭化物における放射性炭素年代測定（AMS測定） | 52 |
| 第2節 表浜貝塚出土炭化材の樹種同定 | 55 |
| 第3節 林崎貝塚出土炭化種実及び炭化材における放射性炭素年代測定（AMS測定） | 57 |
| 附章 二月田貝塚出土玉象嵌土製品の石材判別 | 60 |
| 引用・参考文献 | 66 |
| 写真図版 | |
| 写真図版1 表浜貝塚（1） | 70 |
| 写真図版2 表浜貝塚（2） | 71 |
| 写真図版3 表浜貝塚（3） | 72 |
| 写真図版4 表浜貝塚（4） | 73 |
| 写真図版5 表浜貝塚（5） | 74 |
| 写真図版6 土浜A・B貝塚（1） | 75 |

| | | |
|--------|----------------------|----|
| 写真図版7 | 土浜A・B貝塚(2) | 76 |
| 写真図版8 | 阿川沼貝塚(1) | 77 |
| 写真図版9 | 阿川沼貝塚(2) | 78 |
| 写真図版10 | 真山堀(1) | 79 |
| 写真図版11 | 真山堀(2) | 80 |
| 写真図版12 | 長須賀遺跡(1) | 81 |
| 写真図版13 | 長須賀遺跡(2) | 82 |
| 写真図版14 | 二月田貝塚 | 83 |
| 写真図版15 | 林崎貝塚(1) | 84 |
| 写真図版16 | 林崎貝塚(2) | 85 |
| 写真図版17 | 林崎貝塚(3) | 86 |
| 写真図版18 | 表浜貝塚・二月田貝塚出土遺物 | 87 |
| 写真図版19 | 林崎貝塚出土遺物 | 88 |

報告書抄録

第1章 七ヶ浜町内の遺跡と地理的・歴史的環境

七ヶ浜町は宮城県の中南部、松島湾の南側を画するように突き出た半島（七ヶ浜半島）に位置する。町域は東西約4.5km、南北約4.5km、面積は13.19km²と東北地方で最も面積の小さい自治体である。町の北側は松島湾、南・東側は太平洋に面しており、西側は仙台市、多賀城市、塩竈市と接している。古くから沿岸部の7つの地区（湊浜・松ヶ浜・菖蒲田浜・花洞浜・吉田浜・代ヶ崎浜・東宮浜）に集落が点在し、海苔養殖や近海漁業などの水産業が盛んで、北洋サケ・マス漁発祥の地として知られる。また、沿岸部の多くが特別名勝松島の指定地となっており、松島四大観の一つである多聞山をはじめ、多くの展望地点から湾内に浮かぶ島々と松林が織りなす美しい景観を眺めることができる。

町の中央部には塩竈市及び多賀城市北部から連なる標高40～50mの定高性を示す丘陵が続いており、海岸付近の丘陵端部では比高20m程の急崖が確認される。丘陵裾部には浜堤及び後背湿地などの沖積低地が発達し、農地や宅地として利用されている。江戸時代（万治～寛文・延宝年間）に開削された貞山堀（御舟入堀）が町の西側を南北に貫いており、半島は多賀城・塩竈側の陸地と分断されて高台を呈している。町内の埋蔵文化財包蔵地は、国史跡大木開貝塚をはじめ、縄文時代から中世まで50か所が知られており、これらは丘陵の平坦部や緩斜面、海岸部の低地、砂浜、海蝕洞窟などに所在している（第1図）。以下、各時代における七ヶ浜半島の様相を概観する。

縄文時代

宮城県では縄文時代に属する貝塚が約220か所確認されており、全国有数の縄文貝塚密集地域として知られている。その多くは松島湾を含む仙台湾沿岸、三陸沿岸、阿武隈川下流域の内陸部、北上川中・下流域の内陸部の4つの地域に集中している。特に松島湾沿岸には、大木開貝塚や里浜貝塚、室浜貝塚、船入島貝塚といった学史的に有名な貝塚が多数所在している。松島湾内の貝塚は規模が大きく、多様な遺物を豊富かつ良好な状態で含むことから、明治・大正時代から多くの研究者による調査・研究が行われ、その成果は土器編年研究や貝塚研究に大きく貢献してきた。

町内では草創期の遺跡は現在のところ確認されていない。早期中葉になると、吉田浜貝塚（寺山貝塚）が登場するが早期の遺跡は少ない。この時期の遺跡の多くは前期以降の海進により海中に埋没していると考えられる。前期初頭以降は遺跡が増加し、中期末葉までこの傾向が続く。前・中期の遺跡としては、東宮浜地区の大木開貝塚、左道遺跡、花洞浜地区の藤ヶ沢貝塚、君ヶ岡貝塚などが挙げられる。吉田浜貝塚は松島湾内で現存最古の貝塚として知られている。過去の調査ではカキ主体とする下部貝層、アサリ主体とする上部貝層の2つの貝層が検出され、早期中葉～後葉の貝殻圧痕土器や貝殻炭痕土器が出土している（後藤1968）。左道遺跡ではアサリとカキを主体とする貝層や竈穴住居跡5棟、土壌墓1基などを検出し、前期初頭の上川名式が主体的に出土した（七ヶ浜町教育委員会1991、後藤2005）。大木開貝塚は標高約40mの丘陵上に営まれた前期前葉～後期初頭の拠点集落で、縄文前期・中期における東北地方中・南部の土器型式である「大木式土器」の標式遺跡として有名である。1968（昭和43）年に国史跡の指定を受けている。

後・晩期の遺跡としては、東宮浜地区の東宮貝塚（鳳壽寺貝塚）、代ヶ崎浜地区の沢上貝塚、峯貝塚、吉田浜地区の二月田貝塚（空墓貝塚）、沢尻貝塚、菖蒲田浜地区の阿川沼貝塚、諏訪神社前遺跡、松ヶ浜地区の林崎貝塚、笹山貝塚、汐見台地区の鬼ノ山貝塚などが挙げられる。後期中葉以降、大木開貝塚に代わる後・晩期の拠点集落として町の東部に二月田貝塚が営まれ、後期中葉～末葉には林崎貝塚や鬼ノ山貝塚など、製塩や貝類の加工などを行う作業場と考えられる遺跡が汀線付近の海岸低地に増加する。林崎貝塚では後期中葉（大洞C2式期）の硬く締まった灰層や炭化物層、製塩土器層など製塩に関連する遺構、貝類を廃棄した土坑などが検出されている（七ヶ浜町教育委員会2016）。